

# 大学生のためのリメディアル英語教材の研究

執行智子 (東京未来大学 ことば心理学部)  
 大島 幸 (津田塾大学 総合政策学部)  
 船田まなみ (東京未来大学 こども心理学部)  
 カレイラ松崎順子 (東京経済大学 現代法学部)

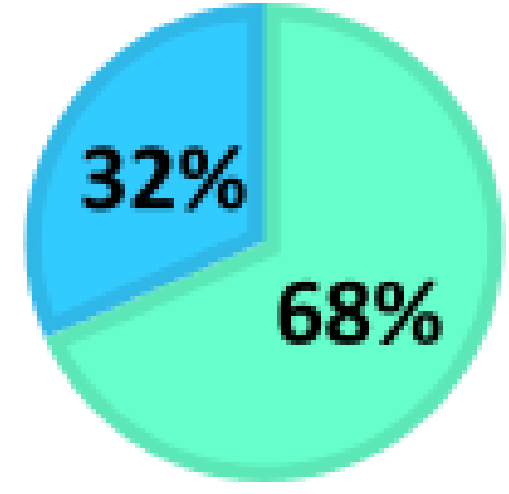
多数の大学生がリメディアル教育を必要とする

- 中学校の段階で身に付いているはずであろう基礎文法力が欠如している学生が多い(中中, 2010)
- 多くの大学が、中学校3年間で学ぶ文法・語彙に最も力を入れて指導している(牧野・平野, 2014)

小野 (2008)  
 米国ではリメディアル教育にICT (Information and Communication Technology) が積極的に使用されてきたが、日本では十分な普及に至っていない  
**→高等教育の質を維持し、学生の学力を高めるためeラーニングの拡大は緊急の課題**

リメディアル教育を行っている大学

■実施している ■実施していない



デジタル教材の効果

- 学習者の理解(聞き取り)に役立つ
- 情報を概念と結びつけるのに寄与する
- 学習者の心的表象 (mental representation) の構築の過程に大きく貢献する
- 記憶に残りやすい
- 語彙力を高める
- 学習者は文字や文字列が容易に認識でき、音と文字の関係について知ることができる

## 本研究の目的

EFL (English as a Foreign Language) 環境での早期英語教育で広く使用されているOxford University Press社のLet's Go, 4th Editionデジタル版 (2012) Book 1~Book 6が、大学生のリメディアル英語教育に適したものであるかどうか調査することを目的とする。

## 教材の機能

音声と文字がついているか (カレイラ, 2008)

contents	book 4	book 5	book 6	
Let's Talk	音声	100%	100%	100%
	音声+文字	100%	100%	100%
Let's Learn	音声	100%	100%	97%
	音声+文字	50%	44%	50%
Let's Learn More	音声	90%	85%	86%
	音声+文字	26%	30%	34%
Let's Read	音声	100%	50%	50%
	音声+文字	100%	100%	100%

## 教材の構成

**Let's Talk**: モデル会話が会話場面の絵と共に提示される。絵を見てcontextを理解し発話練習をする。語彙が練習やchantでイントネーションの練習ができる

**Let's Learn**: 語彙の導入(絵と綴り)からモデル会話の練習、絵を見ながら自分で文章を作る活動を行う。

**Let's Learn More**: 語彙のInputから会話練習をし、さらに、より高いレベルの会話表現を実現できるようStep upしている。

**Let's Read**: 約80語程度のReadingと、内容確認のmultiple choice question、語彙理解のクイズ等が出題される。Reading中に登場した単語に含まれるphonics (Book 1~6) と派生語 (Book 5および6) が掲載されている。

## 教材のテーマ

Context:

- 仕事、学習者が訪れるであろう場所(水族館や戸外)、周囲の人との会話
- 現在・過去・現在完了 (これまでの経験など)・未来について語る
- 大人の初級用のテキストのテーマ(表3)と比較しても相違ない

→大学生の教材としても適している

### Let's Go各Bookのテーマ

	Book 4	Book 5	Book 6
Unit 1	The Great Outdoors	How Much Food?	School Days
Unit 2	Hopes and Dreams	Comparing Animals	At the Aquarium
Unit 3	Birthdays	Last Weekend	Going Shopping
Unit 4	School	Activities	Around Town
Unit 5	Outdoors and Indoors	The Future	Explore the World
Unit 6	People	Fun in the Seasons	Doing Things
Unit 7	Future Plans	The Senses	About Me
Unit 8	Work and Play	New Experiences	In the Future

### 大人のテキストのテーマ

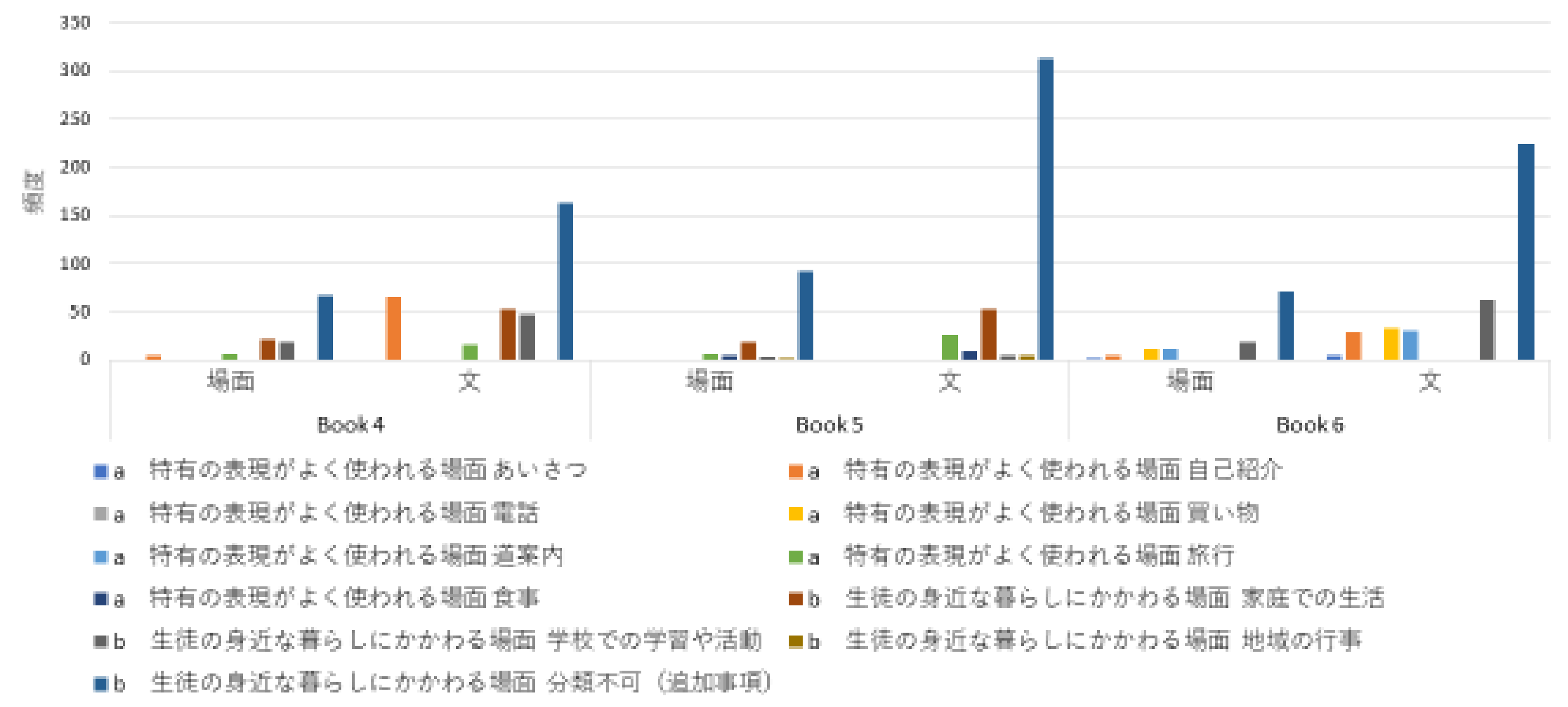
	Smart CHOICE 1 (Oxford)	English FIRTSTHAND 2 (Longman)
Unit 1	Nice to meet you!	Have you two met?
Unit 2	What do you do?	You must be excited!
Unit 3	Do you like spicy food?	Where should I go?
Unit 4	How often do you do yoga?	I love that!
Unit 5	What are you watching?	What's your excuse?
Unit 6	Where were you yesterday?	What's it like there?
Unit 7	Which one is cheaper?	Do you remember when...?
Unit 8	What's she like?	Let's have a party!
Unit 9	What can you do there?	What should I do?
Unit 10	Is there a bank near here?	Tell me a story.
Unit 11	Did you have a good time?	In my opinion...
Unit 12	I'm going to go by car.	It's my dream!

## 教材内容

リメディアルが必要な大学生には、中学校程度の基礎文法力が欠如している (文部科学省調査, 2017; 中中, 2010)

文部科学省が平成20年 (2008年) 3月改訂版中学校学習指導要領で規定している項目に沿って分析

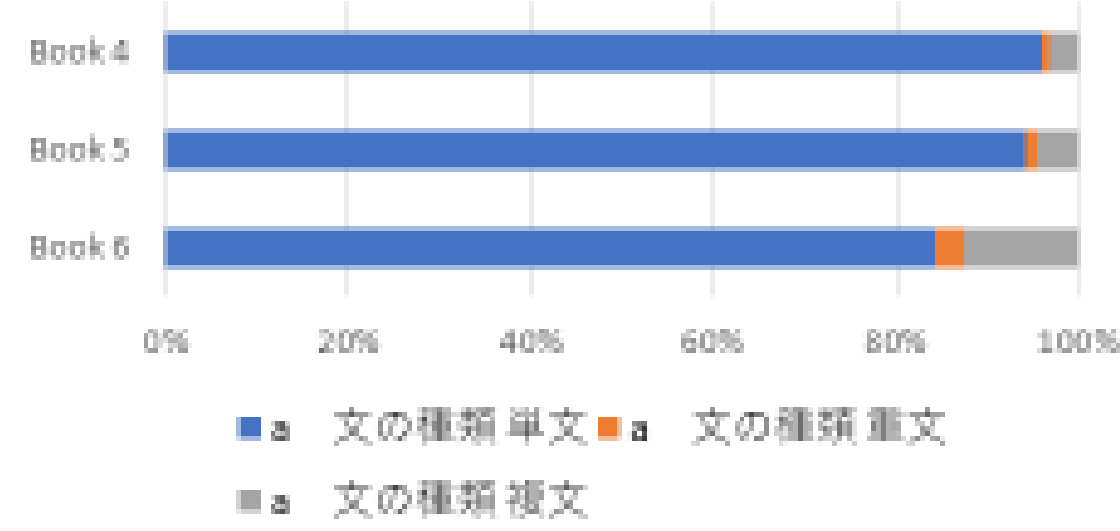
### 言語の使用場面



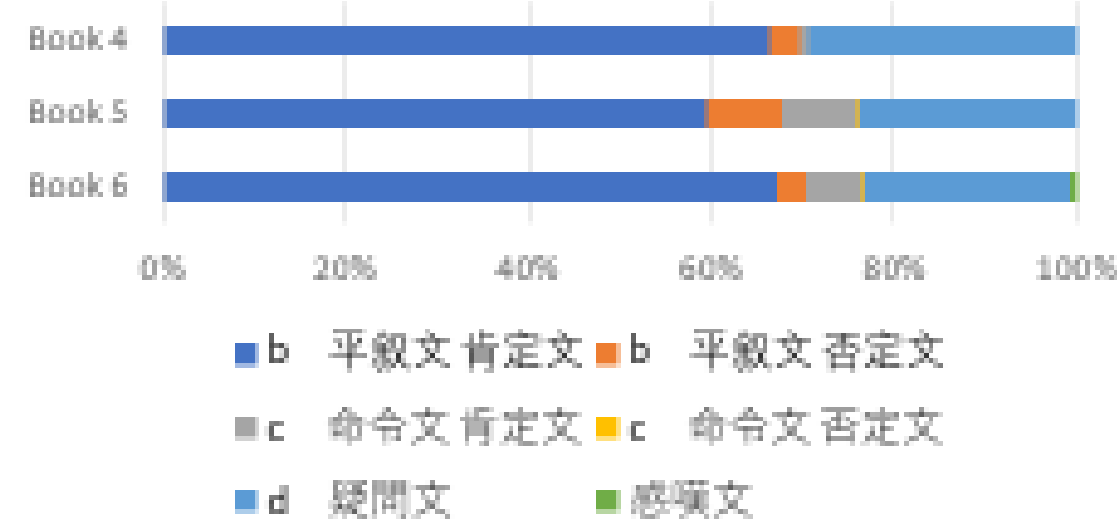
## 文法事項

文部科学省が平成20年 (2008年) 3月改訂版中学校学習指導要領で規定している項目に沿って分析

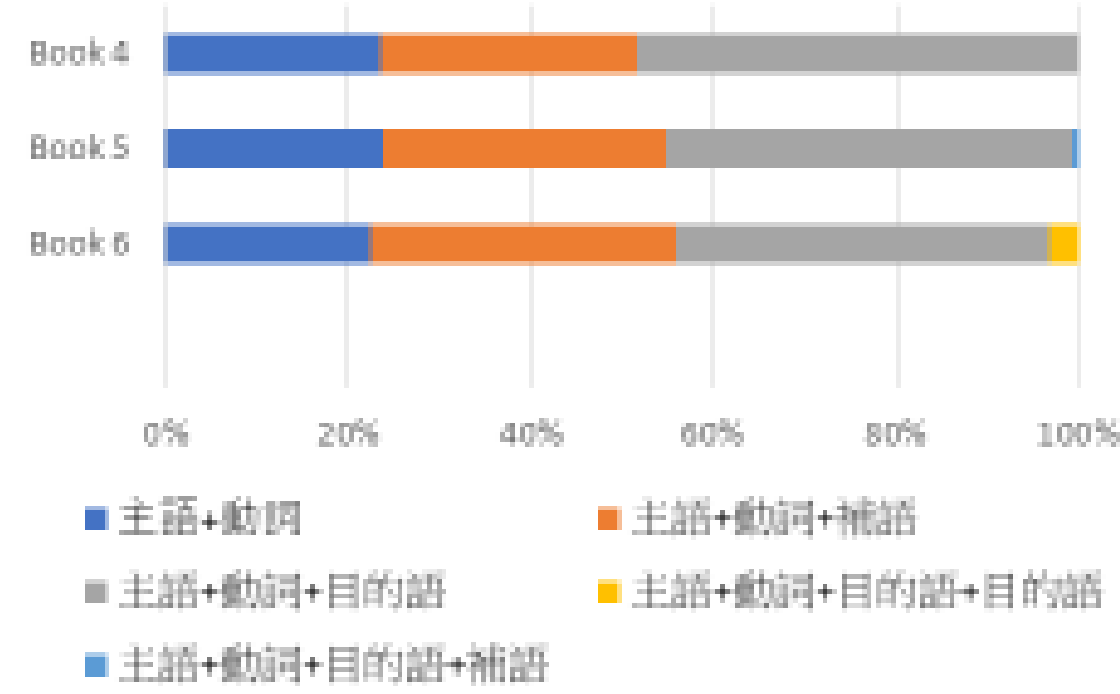
### 文1



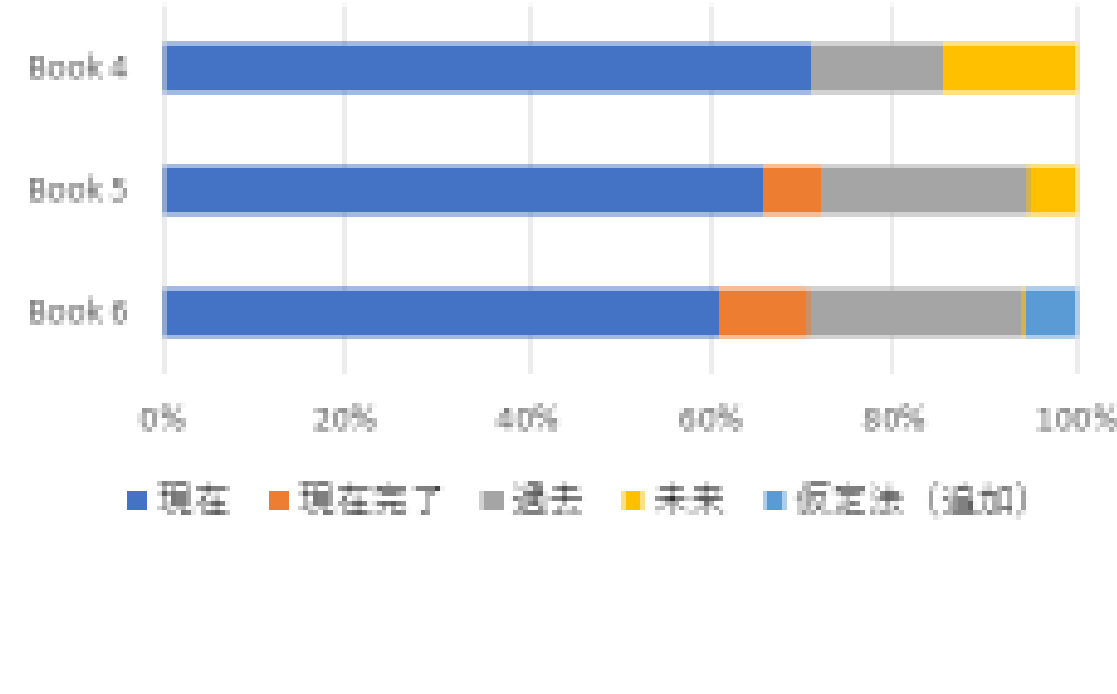
### 文2



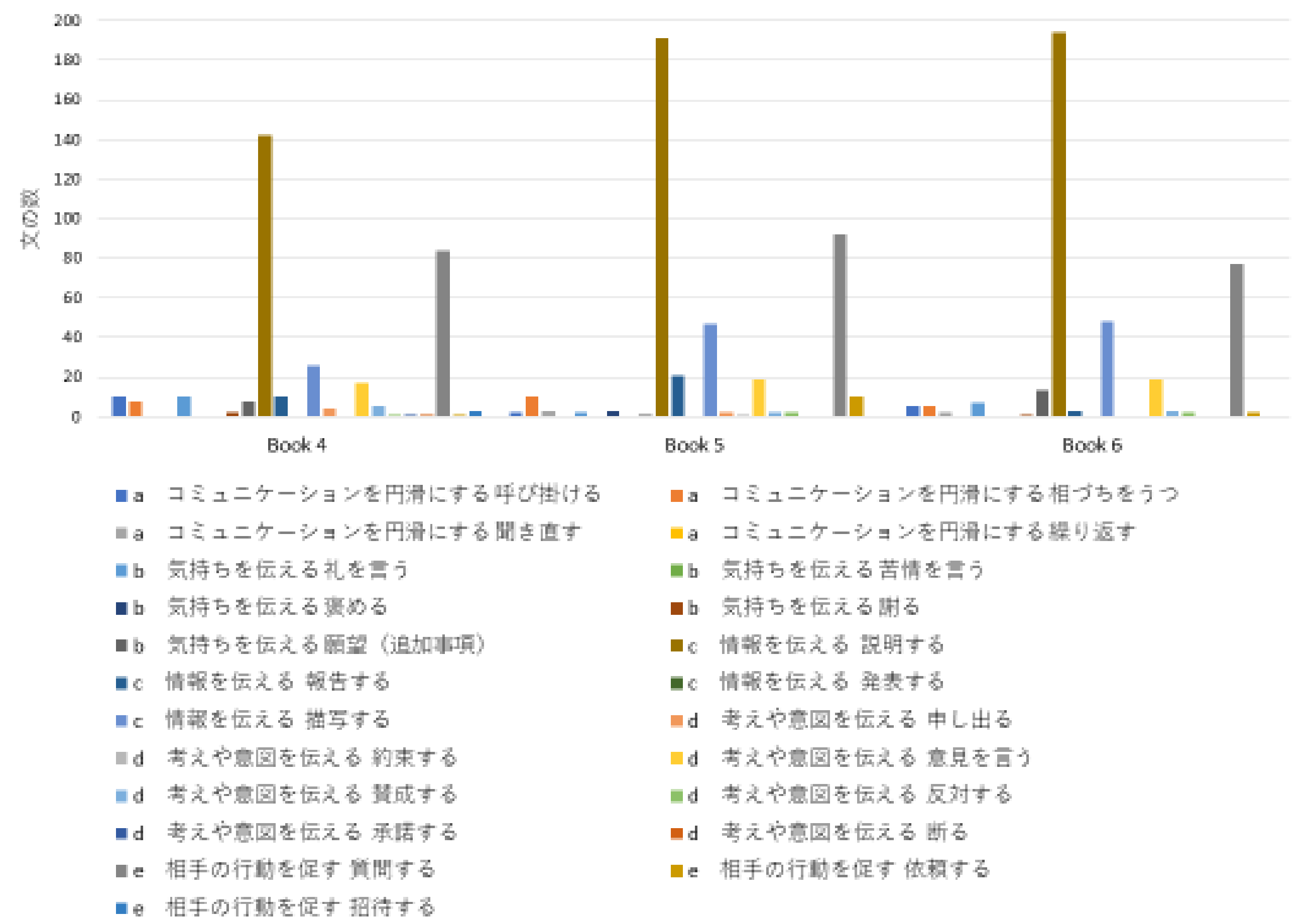
### 文の構造



### 動詞の時制



### 言語の働き



## 語彙

「Compleat Lexical Tutor v.8.3」(Cobb, 2002)を用いてword level (frequency) を分析

### Let's Readの語数

	Book 4	Book 5	Book 6
Unit 1	54	82	78
Unit 2	79	104	76
Unit 3	63	65	82
Unit 4	64	88	81
Unit 5	58	83	85
Unit 6	83	87	88
Unit 7	91	89	81
Unit 8	94	120	89
平均	73.25	89.75	82.5



## 考察とまとめ

- 音声
  - Let's TalkとLet's Read: 音声・文字は、すべてのセクションにおいて提供されている。
  - Let's LearnとLet's Learn More Bookにより割合が異なっている。
  - 学習者が文字を音声化した学習をすることが可能である。
- テーマ
  - 大人用のcommunication用テキストと同様のテーマが多く、大学生にも適している。
- 内容 (中学校学習指導要領に基づいて分析)
  - 「言語の働き」: 「質問する」「説明する」などのcommunicationの基本的なやり取りの働きをしているものが多かったが、複文を使用して「意見を言う」表現や、中学校学習指導要領には含まれない「仮定法を用いた願望の表現」も存在しており、多様な働きの言語が収録されている。
  - 「文法事項」: 単文のみならず複文重文や、ふるまいが複雑である目的語を2つ取る動詞、目的語と補語をとる動詞が含まれている。比較の文、動詞の過去形や不定詞、分詞の用法や受け身なども含まれており、早期英語教育用ではあるが、かなり文法レベルは高い。
- 語彙
  - 第二言語学習者が習得していると有効に活用できる1000語・2000語レベルが、いずれのBookのLet's Readにも同じような語数で収録されており、学習者にとってchallengeしやすい教材となっている。→学習者の基礎的な語彙を積み上げ、定着させるのに役立つ。
  - phonicsや派生語といった、読みを促進するためのbottom-up要素も多く含まれている。→学習者が無理なく語彙力を伸長できる仕組みとなっている。

Oxford University Press社Let's Go (Book 4~6)は、文字を音声化した学習が可能であるだけでなく、汎用性が高いテーマを扱っており、大学生の興味関心を喚起することが可能である。中学校学習指導要領の文法事項をほとんど網羅しており、中学校既習事項を再教育できる教材と言える。  
**→本教材は大学生のリメディアル英語教育に適したものであると考えられる。**